

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371100666		
法人名	(有)ほほえみグループホーム日陽		
事業所名	(有)ほほえみグループホーム日陽		
所在地	愛知県名古屋港区南陽町西福田丸山21-1		
自己評価作成日	平成22年11月28日	評価結果市町村受理日	平成23年3月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ケア・ウィル		
所在地	愛知県名古屋市中村区椿町21-2 第2太閤ビルディング9階		
訪問調査日	平成22年12月15日	評価確定日	平成23年2月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日曜以外は毎日入浴して頂いている。入浴時皆様「気持ちがいい」と喜んでくださいます。
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

名古屋市の西端に位置し、市内とは思えない田畑の広がる地域にあり、目の前の用水ではメダカやザリガニが生息し、イタチなども出没する自然が残された環境にある。伊勢湾台風で大きな被害を被った地域でもあり、災害対策の中に水害の対処も必要であると、その実情を知らない世代ではありながら管理者は痛感している。「ホームは終の棲家である」との代表の理想、信念の下、24時間体制の医療機関のバックアップもあり、既に何人もホームで看取っている。「ここで看取ってもらってよかった」という家族の言葉が代表の心の支えとなっている。その代表の熱い想いと、現実の介護、そして職員との間で潤滑油となれるよう、管理者は日々努力している。そのための改善策も見つかり、新たな気持ちでより良い関係を構築するため取り組んでいる。その実行力に期待したい。
--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-) です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員が日々の中で話し合い、会議など通じて実践につなげている。	開設時から「穏やかにのんびりと笑顔で楽しみながら、暖かい心で見守りさせて頂き、生活に意欲を持って頂けるよう努めます」を理念と定め、玄関に掲示されている。24時間社員が常駐する近所の会社の役員が運営推進委員であることから、非常時の対応も快く引き受けてもらい地域への浸透を実感している。	地域密着に対する理解もされ地域浸透への努力も不断に行われているが、全ての職員の拠り所となる理念について、職員の衆知を集め、目指すべきホームの姿を語り合いながら「地域密着型の理念」についても検討されることを期待したい。
2	(2)	<b>事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の行事には地域の方に参加してもらっている。ボランティアによるレクリエーションも行われている。利用者さんが地域の一員として交流できる人が少なくなった。	町内会に加入し地域の清掃活動には入居者も一緒に参加している。近所は田畑が多く散歩帰りには野菜等を頂くこともある。提携医師の協力の下、地域住民向けに「認知症講座」を開催し地域住民の参加があった。ホーム主催の行事には地元の方の参加も多く、餅つきは地域でも行う家庭が少なくなっため毎年好評を得ている。	
3		<b>事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	支援の方法を活かしているかは疑問ですが、散歩等して地域の方と道で会うと認知症に対する理解が少しだけ活かされている気がします。 2ヶ月に1回の推進会議に町内役員の方が順番に参加され、日陽の理解、協力をいただいている。毎月の町内回覧板に日陽便りを掲載していただいている。事業所の行う行事以外活かすことはない。		
4	(3)	<b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を行い報告や話し合いはされると思いますが、具体的にサービス向上に活かされているかは分かりません。会議での結果は出席者以外に報告はないので分かりません。	家族代表・町内会役員・地域包括支援センター職員・代表・管理者・職員をメンバーとし2カ月に1回開催され、今年度も既に6回の開催が確認された。その全てに地域包括支援センター職員が参加している。職場体験を機会として地域の児童が訪問するようになり、今後その児童から家族へと波及するように祭りの企画を練り直す予定である。	
5	(4)	<b>市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	よく電話等かかってくるので連絡を取り合い協力関係を築いていると思われます。詳しく分からない。	行政との対応は代表が取り仕切り、月に1度は区役所を訪問し、ホームの空き状態、生活保護担当者との打ち合わせ等行っている。一番身近な区役所の支所にパンフレットを置いてもらい、認知症の窓口となるべく新たな行政との協働を計画している。	
6	(5)	<b>身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	自由な暮らしをしていただく為に、身体拘束をしないようにしています。玄関も施錠をせず、ドアに鈴をつけ開閉が分かるよう工夫しています。	昨年度改善点にあげられた施錠については対処されている。今まで拘束に関する認識が浅く、対応策として行っていたことが拘束に該当し、行政の指導もあり改めて身体拘束の周知徹底を図ることとしている。12月に勉強会を開催し、職員が分かりやすいよう例示をあげて行なう予定である。	管理者は拘束の具体例についての認識があるが、全職員への徹底に関して個々の認識の程度に差があると実感している。具体例を挙げての勉強会で一層職員に、拘束の弊害・排除のための意識付けがされるよう取り組みに期待したい。
7		<b>虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	防止に努めていると思います。防止に努めているが、全員が虐待防止できているとは言えず、これからも努力する必要がある。職員全員が虐待しないように努めている。虐待、しつけ、マナーは紙一重。子供と大人と一緒にするのはどうかと思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	あまり学ぶ機会が無いように思います。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族の方に十分説明を行い不安や疑問が生じた場合も納得していただくよう十分説明を行います。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3ヶ月に1度家族会議を開催し、利用者様の様子をお知らせしたり家族の方から意見、感想をお聞きしている。家族会議は開かれていますが、具体的にどう運営に反映されているか解りません。	3カ月に1度家族会が開催され今年度も2回以上の開催が確認された。ホーム便りも毎月、ユニットごとに発行され入居者の和やかな顔が家族の心に安心を与えている。家族の参加が増えるように、家族会を土日に開催することを計画している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議等で意見を言う機会がある。合同ミーティングで意見や提案などが出ている。ミーティングは月1回開催されているが、それは利用者様への介護についてが圧倒的で運営についてどう改善していくかは非常に少ない。一部のスタッフにはあるかも解らないが提案しても活かされない。	月1回のフロア会議および全体会議で意見聴取している。管理者は折を見て個別に職員から聴取もしている。管理者は会議での意見が少ないと考えており、職員の中には意見が採用されないという思いもあり、ボタンの掛け違いを実感していたが解決の糸口を見つけさっそく実行しようとしている。	今後、より多くの職員からどんな些細なことでも意見を取り上げ改善につなげていきたいと管理者は考えていることから、これからの取り組みに大いに期待したい。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員から要望を出し、それに対して回答を頂きました。個人のことでわからない。その気持ちを持って見ると思うが現実的には命令にしか受け止められない時や努力して行動していても否定的に受け止められ、やる気をそがれることが多い。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフが順番で研修に行かせてもらっている。研修を受ける機会を頂いている。スタッフ自身の気持ちもあると思うがもっと働く意欲を持つ職場にしたい。前職時に比べ、研修機会が無い「お金が無い」という回答でがっかり。学びたい、学ばなければという想いで通信教育を受けたり、本を買って自己研修している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に交流する機会を作っていると思います。同業者との交流は無い。先日参加させてもらった実践者研修で話す機会はあったが、どの職場も似たり寄ったり。これでは、介護の充実は出来ないと感じ。管理者だけだと理解している。スタッフには機会なし。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	さりげない会話の中で話を聞き、安心して暮らしていけるように努めています。本人さんの意見を聞くことは出来ないが、少しでも安心できるように努めている。要望を提案すると「言いたい事ばかり、お金がかかることを」と却下されることが多く次のことをいえなくなる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方に利用者様の日々の様子などをお話して関係作りに努めています。家族の希望は出来る限り実現したいという姿勢は感じます。でも職員の負担への配慮は少ないように感じる。家族の言われたことをあまりにも意識しすぎて困ることもある。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めていると思います。認知症の方にも、始めは緊張されおとなしくされているよう、徐々に地を出され対応が大変になっている。ご家族の方にも出来る限り支援をお願いする。早く慣れていただくよう努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯、掃除、食事の手伝い等お互い助け合い、楽しく暮らしていけるよう信頼関係を築いています。先ずは、基本的な排泄、入浴、食事について介助を極力少なくご本人の残存機能を大切にしていける。年々高齢化される中とても大変。特別扱いすることなく早く今までの利用者さんと同じような介護をしたい。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	この考えを支援し、努力している。でも、入居様が高齢化していけば、介護が大変になるのに、じょじょにおまかせになる方が増えていくのが寂しい。来所された時、お話しする程度ですが、家族の方の思いは受け止めて共に支えていきたいと思っています。家族に信頼されるスタッフになるよう努めたい。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の体調を考えながら対応を考えている。外出する時本人の希望などお聞きしたり、日々の会話から汲み取り支援に努めたいとは思っていますが、なかなか難しいです。本人さんに任せるより仕方が無い。	高齢化に伴い活動範囲も狭まっているが、それでも畑作の経験者には畑の管理を任せ、収穫なども手伝ってもらっている。馴染みの化粧品店、パチンコ屋、鰻屋等へ行きたいという要望があり、それぞれ職員が個別に同行して対応している。自分の自宅を訪れては仏壇に手を合わせ満足する入居者もいる。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒にゲームをしたり、おしゃべりしたり歌を唄ったりして関わり合いを大切にしています。関わり合える人は数人。孤立しないように声掛けに努めている。女性の入居者様はおしゃべりでストレスを発散される方が多いので、気の合う方を見付け1階、2階と階が違ってもタイミングを見て遊びに行くなど工夫をしている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	とても難しいが、かなり自立され経済的な問題で退所された方はよく遊びに見えるがおやつを食べられたり回数が増えたと困る。そうしたいと思っています。終了してからの事はスタッフは関わっていないと思う。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	努めている。でも、入居者様の高齢化に伴い、介助が大変になり(例えば9名中8名が排泄介助)日勤など一日中排泄介助に追われることもある。代表や管理者に任せられている。	高齢化に伴い意見の表出も少なくなっているが、個々の生活歴を参考にし、会話からの情報と総合、分析して思いを押し量っている。入居前の生活環境の実地調査も参考にすることがある。お気に入りの職員には細かいことまで話されるため、入浴時に心身ともにリラックスした状態で要望、希望を聞き出す努力もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の報告書等で先ず把握し、お話の中から少しずつ聞いたりしています。本人様に合った暮らし方をしてほしいと努めています。利用者一人ひとりの生活歴を把握し性格を見極めて信頼に繋げる。努めている。例えば、縫い物で生計を支えてこられた方には布巾を縫うなど出来る限り残存機能を活かしていただく。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今、どんな接し方がいいのか、常に考え対応している。個人記録で把握して日々記入しています。一日の心身状態はこまめに把握している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	代表や管理者が作成している。毎月行っているカンファレンス、そして申し送りなどを通して現状認識、意見、対応などを確認している。連絡不行き届きなど無くす為にさらに改善を。	月1回会議が開催され、毎月3人ずつ、3か月かけてユニット全員の見直しをしている。日常の気づきが各職員から発表され、状態によっては計画の変更も行っている。入居前の体験入居では管理者から職員に意見を求めることもある。入退院など状況の変化には即応している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を細かく記入している。個人記録を毎日分担してきちんと記入しています。個別の介護対応をしながら、時間内に記録も書き終え、申し送りをやりこなすのはかなりしんどい作業。でも、頑張っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	スタッフが思っても代表や、管理者の賛成が無くてはできない。その時の本人様の状況に応じて話し合い、柔軟に対応しています。柔軟なサービスの一つがマッサ・ジの施行、麻痺を持ち歩行困難、立ち上がり困難な方が少しずつ残存能力が改善。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	予欲がない。具体的にどのような物があるのか分かりません。力を発揮できる利用者様に対しては、把握し支援をしています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援できてると思う。している。入居者が年々高齢化される中、職員の仕事は大変になっているが、かかりつけ医の前向きな姿勢に励まされ精一杯努力している。月2回事業所のかかりつけ医が往診してくださっています。	入居時に本人や家族に提携医の説明をしている。入居前のかかりつけ医に継続して受診している入居者もいる。月2回、提携医による住診があり、緊急時にもすぐに対応してくれるので、入居者や家族、職員の安心に繋がっている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援できてると思う。定期的にカニエ診療所の看護師からアドバイスを頂いている。職場内の看護職や訪問看護師に情報や気づきを伝え相談をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	行っている。かかりつけの病院と十分に情報交換されていて良い関係作りがされていると思います。代表から情報を聞き対応している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	取り組みつつある。本人様とご家族の意に添えるよう出来るだけの事はしていきたいと思ひます。カニ工診療所の医師と個別の家族の方と話し合いを持ち、現状認識と今後の医療について確認がされている。	提携医は在宅医療に力を注いでいる医師であり、ホームにとっては、重度化や終末期等の対応について心強い支援者である。訪問看護師との連携や職員の中に看護師がいることからすぐに相談できる環境である。本人や家族の意向を踏まえ、医師、看護師、職員と話し合い、連携を取り安心して最期を迎えられる体制で支援している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	一部のスタッフに限られている。充分ではないと思ひます。定期的には難しいが施設で見取りをされた方の様子、対応を聞き少しずつ知識を身につけている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練は時々している。避難訓練等しています。定期的に消防署の方に来て頂き訓練をしている。夜勤時の災害が一番心配。	4、6、9、11月に訓練を実施しており、消防署の協力も得て行なっている。訓練は入居者も一緒に行ない、運営推進会議のメンバーにも訓練の様子を見てもらった。近所の方から非常時の対応についての協力も得られており、地域との協力体制を築いている。	ホームが立地する地形では水害時に対する対策も必要であると考えている。災害時における備蓄品の内容等について明確にすることも含め今後の取り組みに期待したい。
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一番難しい問題であると思ひ、人格の尊重を大切にしたい。プライバシーの確保はされています。利用者様の気持ちを尊重する言葉掛け、対応を心がけています。認知症の方でもプライドはしっかり持って見える。そのプライドを大切にしながら、ご本人の言葉を否定せず受け止める。	入居者一人ひとりの話を、職員はできるだけじっくりと聴くようにし、意見や要望には応えるように心がけている。丁寧な言葉遣いや声のトーンなどに気をつけ、失禁時やトイレへの声かけには、周囲の入居者に気づかれないよう対応し羞恥心に配慮している。居室に入室する時には必ずノックと声かけを徹底している。	日々意識はしていますが、職員が手薄になる時間帯や忙しい時には守ることが難しい状況も出てくると考えられる。介助時における状況について検証し、職員間で共有することについても検討されることを期待したい。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	程遠い話である。常に心掛けてはいますが、自己決定が出来ない人に対してはスタッフが一番良いと思われる方に対応しています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日同じ工程の中で動いている。本人の希望をお聞きし規則正衣生活を支援していますが、スタッフが足りない時など希望に添えないこともあります。出来る限り努力している。しかし入浴などについては職員の勤務時間など考えると夕方のみではなく午前中にも協力していただいている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望を言える人が少ない為スタッフのセンスで決めている。訪問理美容を利用し、髭剃り、爪切り等はいつも綺麗に心がけています。家族の協力がいただけない方にはスタッフが衣類の提供などしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一番楽しい食事はゆっくりと静かに介助しながら、その人にあった食事が好ましい。好きな物食べたい物などお聞きして献立を決めています。食事の準備や片付けも出来るだけしていただいています。利用者様の出来る範囲内でお手伝いをお願いしたりして自己実現でやりがいを感じていただく。	食事は職員が作っているが、準備や片付けなどは入居者が出来る事を一緒にこなっており、できることを自分の仕事として行っている入居者もいる。自分で食べることを大切にし、その人の状態に合わせて食事形態や盛り付け量の調整をしている。訪問時には、職員の見守りや介助のもと、入居者がその人に合った食べ方で食べている姿が見られた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の摂取量を記録している。一日の食事の記録を取り、カロリー不足や水分不足にならないように把握しています。食事が出来ない方にはエンシュアをむせやすい方にはトロミをお茶ではなくジュースで水分をと一人ひとりの状態に対応。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人で出来る人が少なくなり、介助でケアをしている。食後スタッフが付き添い口腔ケアをしています。している。自立されている方には声掛けし見守るが、本人が(した。)と主張されるので対応策を考えている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本はトイレであることをモットーにしているが時間を付けて誘導、排泄できた時は共に喜びたい。記録を取り本人様の排泄パターンを把握して声掛け、支援しています。行っている。具体的に全員の排泄状況が分かる表を作り、全職員の共通認識に、拒否される方への具体的働きかけを模索中。	日中はハビリパンツやパットを使用している方がほとんどであり、個々の排泄パターンに応じて個別の支援に努め、できるだけトイレで排泄できるよう取り組んでいる。排泄の失敗にも本人のプライドを傷つけないよう職員は対応に注意している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬等で対応。適度な運動、散歩等を働きかけています。排泄状態表でいつ排便、便失禁があったのか一目。今は服薬によってコントロールしているが運動も考えていく必要がある。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	スタッフは個々の特徴をつかみタイミングを見て入浴を勧めている。希望は取り入れるようにしています。利用者様の状況を見ながら支援しています。とても難しい。出来る範囲内で努力している。便失禁でシャワー浴など、優先している。	日曜日以外は毎日入浴することが可能であり、入りたい時にいつでも入浴できるよう支援している。毎日入る方もいるが、1日おきに入浴される方が多い。冬場などは拒否をされる方もいることから、気持ちよく入浴してもらえよう、職員が様子をみながら時間をおいて入浴を勧めるなど工夫している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人さんの希望に沿って休息を勧めている。本人様の意志を尊重しています。している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフが様子を見ながらその人にあった服薬をしている。月2回の往診、記録をゼンスタッフが読み理解するよう努めています。職員が分担して服薬の管理をしているので、全入居者様の服薬について管理する必要があると思っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様が高齢化になり楽しみごとでも年々減りつつある。外出、買い物、レクリエーション、その他いろいろ出来るだけ楽しんでいただけるよう努力しています。している。この人出来ることとして一人ひとり寄り添っている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暑い寒いもあるので元気な人には散歩に行ったりするがスタッフの仕事ぶりに左右する。散歩、誕生日会等出来るだけ意に添えるよう支援しています。出来る限り支援している。	天候や体調に合わせて散歩に出かけ、外気に触れている。散歩は平日には可能な限り行ない、特に日曜日が多い。車いすの方も多いことから全員での外出は難しいが、可能な限り個別ケアに取り組んでいきたいと考えている。月1回喫茶店に出かけ気分転換をはかっている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の2人ほどは所持できるが殆ど所持していない。本人さんにとってお金が無いことはとても辛い事のようなのである。自己管理出来る方は所持して頂いています。支援しているが、徐々に認知症が進みお金の支払いが済んでいないのにもかかわらず、支払った。または盗られるという状況が出ると大変。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来ない人が多いが電話はあまり進めていない。携帯電話を使える方は自由に持って頂いて、電話したい方には施設の電話を使って頂いています。携帯電話を持ち、友人、息子さんと連絡を取っている方も。他の方は自ら電話することは困難。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室よりも一番長くいる所なので居心地のよい場所に皆で心掛けしたい。季節の花を飾ったり、絵を張ったりして楽しみたい。利用者様と毎日掃除をしています。季節を感じるような作品を作って飾ったり、お花を飾ったり、居心地の良い空間であるよう工夫しています。出来る範囲内で工夫もしている。作品を飾ったり、ポータブルトイレの掃除など。	1階と2階でそれぞれ異なり、2階ではうさぎや鳥、犬等の動物が飼われている。壁には入居者の作品や写真が飾られており、写真から入居者の楽しんでいる様子がうかがえる。ホワイトボードには日付が記入され入居者にも分かりやすくしている。リビングは日当たりがよくとても明るい。脱衣場に置いてある洗剤等の保管について、現在危険性が無いこともあり、特別に工夫等はされていないが一度検討されることを期待したい。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	特別な工夫はしてないが気の合った話の出来る人達の輪を作ったりはしている。基本的には本人の希望で過ごして頂いていますが、目の離せない方は常にスタッフの目の届く所に居てもらおうようにしています。しているというか、入居者様の生活状況を考慮しながら居場所を決めている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の物は家族の方に任せてあり、スタッフは置き場所等、動きやすく、作業しやすく工夫している。居室はご家族と決めた家具が置いてあるのでご本人様は落ち着かれています。入居者様の要介護度が高くなるほど寝る時以外はリビングで過ごされるので、居室はシンプルに過ごせるよう工夫を。布団については夏、冬物が同居しているので家族の方の協力があればいい。	入居者の馴染みの家具や日用品、思い出の品等を持ってきてもらい、居心地よく過ごせるように個々の部屋をそれぞれ工夫している。居室内の温度管理は、職員が確認して調整を行っている。また、換気のため窓を開け空気の流れ替えも行なっている。掃除は本人が行なう方もいれば、職員と一緒にする方もいて、清潔に保たれている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が受けた不利なことによってきずき、安全性を重視することが多い。スタッフが利用者様の「出来ること」「分かること」を把握して、出来るだけ自立した生活を送れるよう努力しています。建物内部で台所、浴室、洗面所が中心にあり居室全体が見渡せないのが不安。		



### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371100666		
法人名	(有)ほほえみグループホーム日陽		
事業所名	(有)ほほえみグループホーム日陽		
所在地	愛知県名古屋市港区南陽町西福田丸山21-1		
自己評価作成日	平成22年11月28日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の最後の看取りを医療機関との連携で勤めました。ご家族様が大変喜んでおられました。 夏祭り、餅つきなど地域との交流 日曜以外の毎日の入浴 毎月合同、個別外出 運動会、バスツアーなど行事が多く楽しく過ごせる。 医師を招いて勉強会(スタッフや地域の方) 季節的の行事がある。 個別対応(パチンコ、鰻屋、自分の家)
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

(外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入))
-----------------------------------

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日陽の理念を掲げ、毎日見て確認できる。玄関先に記入された紙が貼ってある。常に利用者様の希望されることをかなえられるように職員同士が話し合い出来る限り実践している。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方が訪問し、踊りや大正琴など披露してください。毎年行っている夏祭りは年々地域の方の参加が増えている。近隣の子供やボランティアの訪問があります。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	往診の先生が講師になり地域の方に向けて認知症の勉強会を行った。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、話し合いいろいろなお意見等頂いている。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	時折連絡し、連携を保っている。代表が連絡を取り合っているので詳しくは分からない。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルがある。玄関の施錠もなくなった。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が虐待しないように努めている。高齢者虐待防止関連法については独自に学んでいる。(資格を習得する為に学んでいた)虐待、しつけ、マナーは紙一重。子供と大人と一緒にするのはどうかと思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については6年ほど前に勉強会を行った。その後も独自で学んでいる。日常自立支援も資格を習得する為に学んでいる。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	殆ど代表が行っています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会議の機会や訪問された際でもご意見を頂いている。 出来る限り運営に反映できるように取り組んでいる。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議等で意見を言う機会がある。 合同ミーティングで意見や提案などが出ている。 会議は月1回行い代表者や管理者職員で話し合いをして運営に反映させている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境が整っていると思う。 されていると思います。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会を頂いている。 職員同士、援助方法を日々話し合い、反映させている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流や勉強会に参加して情報を得ている。 少しずつされている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が安心できる環境が基本なので傾聴し、受容している。 出来る限り聞き不安の無いようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人同様、家族にも行っている。 ご家族が希望されることを聞き入れ利用される方が不安の無いよう関係作りをしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスの利用も考えて対応している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来るだけ関係を築いていけるようにしている。 本人が話されることは最後まで聞き談話することで安心される。 利用者の価値観に添って援助を行っている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の絆を大切にしながら関係作りを大切にしている。 ご家族の方には出来る限り施設に来て頂き本人と話をしたりされている。 敬老会などご家族の方に来てもらっている。 職員との関係もいいと思います。 本人を支えていく関係作りを大切にしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある化粧品売り場や喫茶店などの場所に行き支援に努めている。 家族や親戚の方が来られている。 個別に外出され馴染みのところへも行かれています。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士談話されている。 利用者、職員が共に同じ事をしながら話すこともある。共に暮らしを楽しめるように支援をしている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	そうしたいと思っています。 終了後も情報を提供している。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの希望されることは出来る限りしている。 時には職員同士で話し合いすることもある。 本人の希望、意向の把握に努めているが訴える人が少ない現状もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活歴を把握し性格を見極めて信頼に繋げる。 生活歴や生活環境Itc これまでの経過は家族や本人から聞いて把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る限り、把握に努め本人様の出来る力、わかる力を発見して日々の生活に活かしている。 利用者様の一日の生活状況の流れを把握しつつ援助にあたっている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的、または状況が著しく変化した場合など話し合いをし意見・アイデアを出してもらい介護計画を作成している。 家族会議で出た話を基にして職員会議で話し合ったりしてアイデアを出して介護計画を作成している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月に1回、ミーティング時の意見も聞き入れながら介護計画の見直しに活かしている。 本人の行動や話されたこと体調の変化など個別に記録している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとり出来る限りのニーズに柔軟に対応している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	商店が近くにないためお店は少ないが、ボランティア、喫茶店等豊かな暮らしを楽しむことが出来るよう支援している。ボランティアの方が定期的に来られる。時には本人様が必要とされる物は職員と外出し購入することもある。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が馴染みの医師の場合、ご家族様に連れて行ってもらい受診されている方がいる。本人や家族が希望する医療を受けられるように支援している。 家族と話し合いをしてほば施設のかかりつけ医に診て貰っている。家族の希望に応じ、なじみの医師に診て貰う事もある。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回訪問看護師が見え、お伝えしている。医師にも伝わり状況により受診を受けている。 利用者の訴えやおかしいなと思った症状など、看護職の者に相談しています。週に1度、訪問看護師が来て相談しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	代表と医師とで話がされている。常に情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアのあり方等家族会議の時や数人の家族とは説明し、話し合いをしている。医師から全員に話をしていただいている。終末期に関しては家族の方と相談し施設で看取るか否か話し合いをしています。重度化については医師と相談し話し合っている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や、事故発生時のマニュアルがあるが、全ての職員ができるかは難しい。急変、事故発生時には応急手当をし病院に連絡し、医師の指示に従っている。直ぐに救急車を呼ぶ。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行って身に付けていると思われる。火災訓練、避難訓練を必ず行っている。夜間の訓練も行った。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり尊重し、誇りやプライドを損ねない言葉掛けや対応に気をつけている。一人ひとり性格が違うので、その人にあった言葉掛けをし対応している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が難しいと思われる利用者には選択して頂いたり、出来る限り希望を表しやすいように工夫している。本人がどうしたいか、どうするか言葉掛けし本人の希望や思いを尊重し対応している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り希望に添えるよう努力し支援している。本人がされることを見守り、本人のペースで一日を過ごしてもらうようにしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧品をしたり、訪問理美容を利用できるよう支援している。出来る限りの事はしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備、食事、片付けを利用者と職員が一緒に行っている。 食事の準備や片付けの出来る方には職員と一緒にされている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の好き嫌いを把握し別メニュー対応にしたり、少、中等本人に合った量の調整を行っている。 栄養バランスを考えた献立をしている。食事の量はその人にあった量にしている。水分は一人ひとりの表をまとめて摂取していただいている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的な歯科往診で口腔内をチェックしている。 毎日、毎食後口腔ケアの声掛け、確認、チェックを行っている。 義歯は週2回消毒し、毎食後必ず声掛けし、口腔ケアをしている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のチェックを行い、定期的にトイレ誘導を行っている。 自立している方は見守り、そうでない方は声掛け、誘導しトイレで排泄するようにしている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動をしていただいたり、水分を撮って頂いたり個々に応じた予防に取り組んでいる。 水分は出来る限り多く摂って貰い、ヨーグルトなども摂取していただいている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日曜日以外は毎日入浴を行っている。本人の希望、主治医の意見を聞きながら個々に沿った支援をしている。 本人の希望される時間になるべく入浴してもらっている。入らないと言われる時は無理には誘わないようにしている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して気持ちよく眠れるよう日中は出来るだけ活動していただいたりし、支援している。 何時でも居室へ戻って寝られるようにしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員が理解されているかは難しい。薬の変更があると飲み忘れが見られる。 複数ある薬は一つにまとめて飲み忘れの無いようにしている。症状に変化があるときは医師と相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割、楽しみごと。本人の希望も取り入れながら支援をしている。 本人の出来る事は出来る限りして頂いている。嗜好品は出来る限り購入していただいている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日出来る出来ないが外出担当が調整しながら、本人の希望の場所に行けるよう支援している。家族との外出など、希望があればされている。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っていたいと希望される利用者様には所持していただき使えるよう支援している。 お金は代表が管理している。本人の希望に応じて出している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、支援をしている。 家族からの電話で家族が希望されれば本人と話されることもある。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下に外出した時の写真が飾ってあったり、季節感ある絵などレクリエーションで作成し飾ってある。 出来る限りのことはされている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間の中でも、一人用の座椅子があったり、気の合った利用者同士で話せるようソファが置いてある。 ソファなどで気の合った利用者同士でテレビを観たり、話をしたりされている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みのあるものを持ち込んで安心が出来る環境づくりを行っている。 されていると思います。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の馴染みのあるものを持ち込んだりし、安心出来る環境づくりを行っている。 されていると思います		



(別紙4(2))

事業所名: 有限会社ほほえみグループホーム日陽

作成日: 平成23年2月6日

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】				
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容 目標達成に要する期間
1	36	介護者主体の生活をするのではなく、入居者主体の生活をして頂く。 誇りや尊厳、プライバシーの保護への理解を深める。 その人らしい生活を考える。	家族的な関係を保ちつつ、個人個人を尊重し、誇りやプライバシーの保護に努める。 その人らしい生活とは何かを考え、話し合う。	普段の生活習慣を把握する。 尊厳や誇り、プライバシーとは何かを再確認し勉強会、ミーティングなどで話し合いスタッフ全員が統一的な介護が出来るようにする。 6ヶ月
2	6	身体拘束とは何か理解しているか否か	身体拘束のない介護の実践をしていく。 身体拘束に関する研修に参加する。 勉強会を開く。	資料を作成し、合同ミーティングで話し合いをする。 研修や勉強会に参加する。 身体拘束に関することを全員が把握する。 1ヶ月
3	1	理念について理解し、把握、実践できているか	地域密着型のサービスを考慮した理念を管理者やスタッフで作成する。	管理者や経験の長い者達で指針を作成し他のスタッフと話し合い、より良い理念を掲げ、理解、実践していく。 6ヶ月
4	11	代表者や管理者はスタッフの意見を聞き入れ、事業や、仕事に反映しているか	スタッフからの意見を会議で取り上げ、皆で話し合う。 採用、不採用に当たる意見の相違を無くす。	スタッフからの意見を会議で話し合い、全員がその意見について把握する。 常時話し合いが出来る環境づくりをする。 3ヶ月
5	35	水害時におけるマニュアルの作成	水害時に避難ができるか否か状況をスタッフが把握しているようにする。	備蓄品の把握、確認。水害時を想定した訓練を試みる。 ヶ月
6				ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。